

令和7年度 第二みのり園 地域連携推進会議 報告書

管理者 松尾 淳一

実施日時：令和7年5月13日（火） 10：00～11：30

1. 管理者挨拶

利用者、利用者家族、地域との連携について、「連携」はつながること。顔が見える関係性を構築し、地域の中での利用者の生活がより良いものになるよう、努めて行きたい。

2. 出席者紹介

利用者代表 濱崎 様 利用者家族代表 谷下 様 本田 様
地域関係者代表 浅野 様（地域の消防団の代表）

管理者 松尾 淳一 主任 柏 和嘉子 担当 浜端 孝祥 記録 松山 由奈

3. 地域連携推進会議の説明

「地域連携推進会議の概要」を見て、内容の説明を行う。

施設は障害のある方が生活する場所であり、生活のプライバシーを守る必要があるが、事業運営が外部に見えづらいという課題がある。

⇒どうしても閉鎖的になりやすい。

⇒そのような課題を少しでも解決していくために、地域とつながっていくことの重要性が高まっている。

※地域連携推進会議とは、施設などと地域が連携することによって、様々な目的を達成するために、施設が、利用者・利用者家族・地域関係者などで構成したメンバーで、会議や施設の訪問を行うことであることを説明する。

⇒おおむね1年に1回以上の開催が義務化

○会議や訪問を通して、それぞれの立場から意見を出し合ったり、コミュニケーションを取り合ったり、参加者の役割を果たすことで、多方面とのつながりを持つことができる。

4. 施設内見学

男子棟居室やホール、作業室、食堂、女子棟を見学する

男子棟・ホール

- ・居室を見て回り、普段の生活の様子について説明を行う
- ・ホール内で洗濯物の仕分けを行っている様子を見学する
- ・職員に声を掛けて頂く
- ・利用者代表の濱崎さんに家族の方より声を掛けて頂く

- ・散髪はどのようにしているのか、参加者同士で話をされる

《参加者の声》

- ・みのり園からの利用者の顔を見て懐かしい
- ・皆さん、年をとったと感じる
- ・濱崎さんの年齢を聞き、とても若い

作業室

- ・ペランダにて歩行訓練している様子を見学する
- ・ワークの種類を一つ一つ見てもらっており、谷下さん、本田さんがどれを好んでワークに取り組んでいるのか、説明を行う
- ・利用者に声を掛けて頂く
- ・歩行訓練後、ワークに取り組む様子を見学する
- ・職員より、普段は集中して取り組むのが難しい方も今日はとても頑張ってワークに取り組んでいると説明がある

《参加者の声》

- ・普段の施設見学と違うことがわかっているのかな
- ・昔から知っている利用者を見て、年をとったなぁと感じる
- ・表情が豊か

女子棟

- ・だるま落としのレクを行っており、見学する
- ・一緒にレクに参加して頂く
- ・利用者、職員に声を掛けて頂く

《参加者の声》

- ・歌が上手だった子だね
- ・他のきょうだいはどちらにいろの？
- ・女性も年をとったなぁ
- ・一緒にレクをすることで刺激になる
- ・普段の見学の時と利用者の様子が違う

食堂

- ・食堂での配膳の様子を見学する

《参加者の声》

- ・食事の量は皆さん違うの？

5. 第二みのり園の状況報告

- ・パンフレットを見ながら、利用者の状況、活動内容、年間行事などについて説明
- ・行事での写真を見て頂く（職員が季節に合わせた行事の計画を立てる。利用者も職員

も楽しめるように工夫している)

・BCP、各委員会活動についての説明を行う

○業務継続計画（BCP）について→年2回の研修、訓練義務

感染症BCP→備蓄は備えているか？→担当が確認し備えている

自然災害BCP→何を優先して行うか？→人命の安全と事業の継続（利用者の生活）

○感染症対策委員会について

嘔吐の時はどう処理をするか？→研修、訓練を通し対応している

防護服の着用の仕方は？→同じく、訓練で実際着用し対応している

毎月の勉強会（委員会）に合わせ、年2回の研修、訓練を実施していることを報告

○虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会について

チェックシートで自分自身のことを振り返る

担当者を配置し、研修等を実施していることを報告

○避難訓練等について

地域の消防団との関わり

地震発生時や土砂災害時の避難訓練

防犯訓練（さすまた使用の体験）

年1回消防署立ち合いの合同火災避難訓練を実施していることを報告

6. 意見交換、助言の聴取

利用者家族

- ・皆さん、年を重ねており、時の流れを感じる
- ・十人町みのり園の頃が思い出される
- ・子どもも、私たち親も年を取ってしまっている
- ・手作りのワークの道具を見て安心
- ・見学して、皆さんに声を掛けられなかったことを反省
- ・散髪を一人でされていることを初めて知り驚いた

地域関係者

- ・ケガが心配→時々フラットとするのを見ると心配
- ・（消防団の立場より）消防の設備のことをよく知ってもらっている
- ・避難訓練は完ぺきだったけど、実際は興奮したりしているとどうだろうか

○今回の会議、訪問を通して、それぞれの構成員で声を掛け合って意見を出し合うことでつながりを持てるように感じる

○実際に見ることで安心する

○訪問するには市内中心部からは遠い、来たくても来れない方もいると思う

※機会があればぜひ！またこのような会議、訪問を開催しましょう！